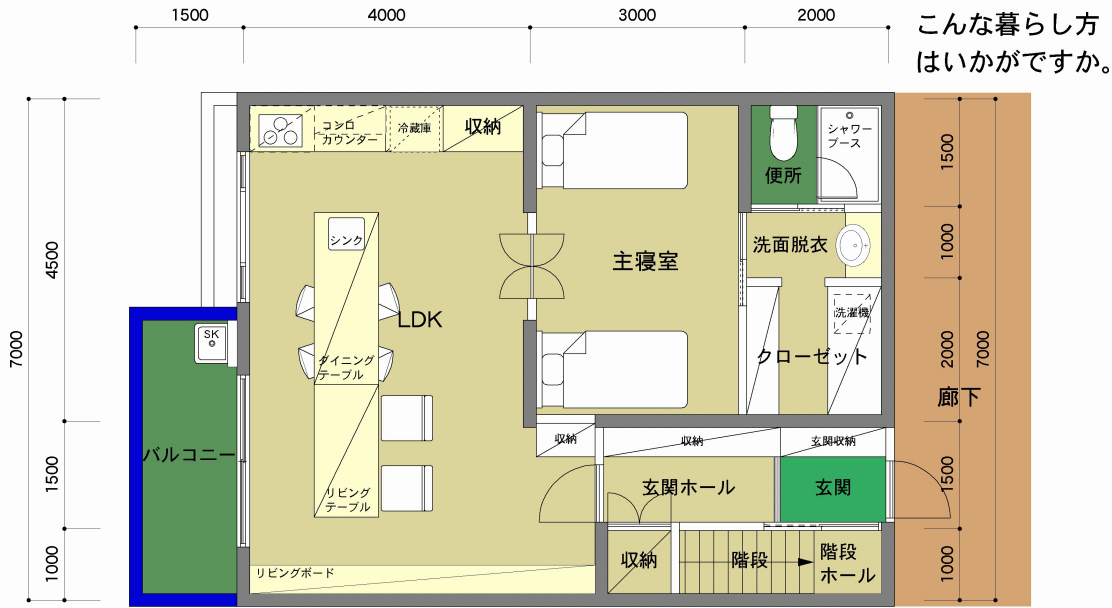
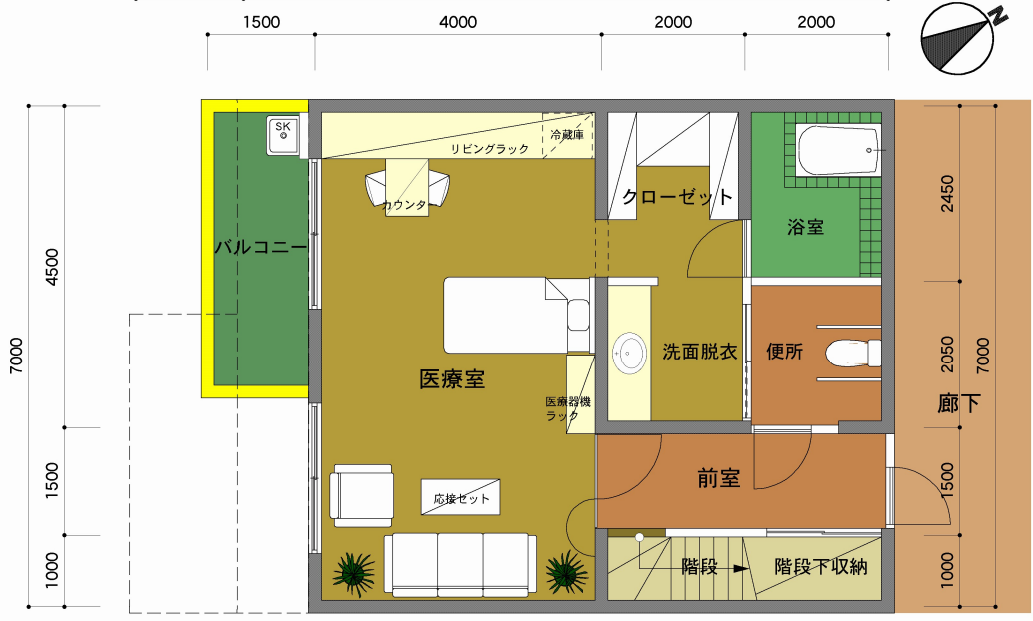


# 『最後まで一緒に住まい』 = 終末医療の現場から =



2階平面図  
S=1/75  
2階床面積  
63.00㎡



1階平面図  
S=1/75  
1階床面積  
56.00㎡

□こんな『終末医療』があったなら・・・。[独身のおばさんのこと]

私たち夫婦には70歳を過ぎたおばさんがいます。もしもあのお世話になった元気なおばさんに『終末医療』が必要になったなら・・・。こんなことを考えたとき、やっぱり一緒にいたいと思います。(きっと主人も同じだと思います。)

こんなことを考えるには、ちょっとした理由(わけ)があります。

私たち夫婦は、主人の父と母を自宅で看取りました。その当時、私には「自宅で看取る」と言い出した主人の気持ちが分かりませんでした。どんなことをしなければならないのか、私にはものすごく不安でした。(きっと主人も同じだったんじゃないかなと思います。)主人は、義父と義母が癌で闘病生活をはじめたときに「俺のおばあちゃんが癌だったとき、おばあちゃんは病院のベッドで、家に帰りたいうなされるように言ってたんだよ。切なかった。だから、お父ちゃんやお母ちゃんは、必ず家で看取らせて。頼む。」と、常々私に言ってました。

主人は、そんな経験からか、「日本の終末医療って淋しいよな。最後は自宅では言わないまでも、やっぱり人生の終わりが見えたときは、自分の家族と一緒にいられたらどんなにいいかと思わない?」と言ってます。私も同じ気持ちです。

この『住まい』は、そんな『終末医療』ができることを夢見て考えました。

- 『最後まで一緒に住まい』のポイント = 『楽しい長家』のひとつとして=
- ①「大切な家族」と、最後まで一緒に暮らすことができます。
  - ②最後を迎えるその人の『個人の暮らし』が楽しくなる間取りの住まいです。
  - ③その人のプライバシーも考えた『暮らしやすい』間取りです。
  - ④動きやすい動線で、身体に不自由があっても大丈夫。
  - ⑤階段で2階に暮らす『身内』の住まいとつながっています。
  - ⑥ここから『身内』の気配が流れてきます。何かしたら直ぐに分かります。
  - ⑦2階は『身内』でなくても親しい人の宿泊(滞在)部屋にもなります。
  - ⑧2階で作った『家庭料理』も一緒に食べることができます。
  - ⑨医療室には、接客で活躍する『応接セット』があります。
  - ⑩『上下の交流』がしたくなる微妙な不便さが2階の住まいにあります。
  - ⑪こうした『個の家族』が集って住まう『楽しい長家』のひとつの住戸です。
  - ⑫「あったらいいな、こんな『終末医療』」のいきいき楽しい住まいです。